早川平会計事務所通信

12月号 VOL. 097

税理士法人早川・平会計

〒101-0048

東京都千代田区神田司町２－１０安和司町ビル２階

電話：03-3254-2171　ＦＡＸ：03-3254-2174

http://www.ht-tax.com

mail：y.taira@ht-tax.com

地井武男の『ちい散歩』、加山雄三の『ゆうゆう散歩』に続く高田純次の『じゅん散歩』が人気です。平成のテキトー男と呼ばれる高田さんですが、説教と昔話と自慢話をしないことがモットーだとか。年と共に体は固くなっても頭と心は柔軟に！散歩をするように人生を楽しみたいものですね。良いお年をお迎えください。

【出国税とも呼ばれる「国外転出時課税」とは】

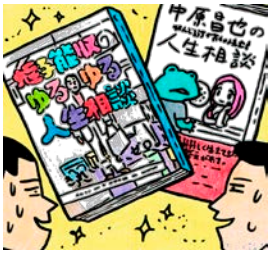
平成二十七年度の税制改正において「国外転出をする場合の譲渡所得等の特例（国外転出時課税）」が創設され、平成二十七年七月一日から施行されました。

この制度は「出国税」とも呼ばれ、類似するものは欧米など世界各国においてすでに導入されています。税率を意図的に低くしている国や地域で株式などの資産を売り、課税を逃れるのを防止することが目的とされています。対象となる資産は、国外転出をする時点で１億円以上になる有価証券や未決済の信用取引などになります。具体的には、株式や投資信託などの有価証券、匿名組合契約の出資の持分、未決済の信用取引・発行日取引及び未決済のデリバティブ取引（先物取引・オプション取引など）が対象資産に該当します。これらを所有等している一定の居住者に対し対象資産の譲渡等があったものとみなして、その対象資産の含み益に対して所得税が課税されます。

国外転出後に確定申告書を提出する場合には「国外転出時の対象資産の価額」、国外転出前に確定申告書を提出する場合には「国外転出予定日の３カ月前の日の対象資産の価額」で納税額が計算されます。なお、一定の手続をすることで納税猶予制度や税額を減額するなどの措置を受けることができます。また海外移住だけでなく１年を超すような海外転勤や留学も含まれるので注意が必要です。

【本音の回答が爽快！社会で息苦しさを感じている世代に人気】

大人の人生相談本が、新たなカテゴリーで注目を集めています。人生経験の豊富な人格者が指南する従来の相談本とは異なり、漫画家の蛭子能収氏やミュージシャンの中原昌也氏といった異色の回答者が人気です。意外な論点で悩みを笑い飛ばしたり、あえて面白おかしい回答で悩みを超越したりして売り上げを伸ばしています。強烈なキャラクターながら人生の酸いも甘いも噛み分ける回答者の深いやさしさが、ビジネス社会に疲れた 30～40 代の大人の心を癒しています。



今月のあなたの運勢　鑑定：妙慎

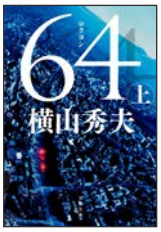
A型	B型	O型	AB型
環境や立場に変化が生じやすい月です。無闇に動くより状況を分析しながら的を射た行動を取るよう心掛けて！	何事も意欲的に取り組みましょう。ただし目先の利益に走ると足をすくわれやすいため先を見越した行動が吉！	やる気はあるものの体力不足でストレスを感じそうです。無理をせず、できることから確実にこなしましょう。	社交運が活発なため集会などに縁がある月。見聞を広げるつもりで出掛けると予想以上の収穫が期待できます。

【お金を手にして分かったこと】

「除」には「古いものを捨てて新しいものに移る」という意味があります。ですから、古い年から新しい年に移る大晦日の「夜」を「除夜」というようです。除夜には、暮れゆく年を惜しみつつ一年を締めくくる様々な行事が行われます。108 回突かれる除夜の鐘もそのひとつです。ところで「１０８」という数は一般的に「煩悩の数」とされています。そもそも煩悩とは自分を悩ませるものや心を乱すもののこと。仏教の根本的な考え方でいうと人の煩悩は大きく３つあり、まとめて「三毒」と呼ばれるそうです。

１つ目は「貪（とん）」、必要以上に欲しがること。２つ目は「瞋（じん）」、自分の心に執着して思い通りにならないと怒ること。３つ目は「痴（ち）」、無知で愚かな考え方にとらわれること。

要するに「欲」と「怒り」と「愚かさ」が私たち人間を悩ませ、心を乱すのでしょう。欲の対象はモノに限りません。「もっと○○だったら」と人をうらやむことも欲の一種です。もとより思い通りにならないのが世の中なのに、自分の考え方に執着していると、いつもイライラしながら暮らすことになりかねません。そうやって自分で煩悩を生み出してしまうのが人間の愚かさなのでしょうか。ある資産家がしみじみ話していたそうです。それは「人間、どうしたって不安は消えない」ということです。お金がないのは不安だけれど、あればあったで今度は「このお金が減ったらどうしよう」と不安になるし、経済的に満たされても健康や人間関係の不安はつきまとう。商売で成功し、お金持ちになってはじめて「いくらお金があっても不安は消えないことが実感できた」というその人は、改めて「幸せって何だろう」と考えてみたそうです。その答えはあっけないほどシンプルでした。いわく、「今この瞬間を幸せだと思えることが幸せである」と。煩悩は十人十色でも、人生は「今」の積み重ねであることに変わりはありません。つまり商売の成功も「今」の積み重ねだということでしょう。今年も残りわずかです。「今」を悔のないように商売に励みたいものですね。

【６４（ロクヨン）】

「６４」とは、昭和６４年に発生した未解決の女児誘拐殺人事件のこと。時効まであと１年に迫った平成１４年、この事件に酷似した誘拐事件が発生する。模倣犯の仕業か、それとも同一犯が再び動き出したのか。本格派のミステリー小説です。